

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びよとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	--	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校	1 学習の動機付けを工夫し、ゴールイメージを明確に持たせる。 2 既習事項を学習場面で積極的に生かせるよう支援する。 3 単元末等に成長を確かめさせる。	・ゴールイメージを明確に持たせるよう、学習の動機付けを工夫した単元の割合 ・1教科以上、授業で「～たい」という意識で、学習している児童の割合(アンケート)	全単元の50% 児童の80%	70.4% 100%	78.4% 100%	100% 100%	A	①学習の動機付けの工夫の取組 ・単元全体を把握→児童に付けたい力の明確化→学習の動機付けの工夫を継続→工夫した単元学習を維持 目標達成◎ ②児童の意欲の調査・分析 ⇒「文章表現の工夫を読み取りたい」「表や図などを活用して考えたい」等、より深い学びに意欲を持つ児童が増◎	①②④来年度も年間を通した取組を計画 ・今年度の取組を生かして学習が深まるようにカリキュラムマネジメントを行う。 ・単元の導入時にねらいを明確にし、見直しをもった計画を立てて学習を進めることを継続していく。 ③児童実態と対応した効果的な取組 ・読み書きのスキルは、継続してドリル学習で習熟を図る。 ・漢字を確実に定着させるための取組を全校で行う。(短期集中漢字学習・鷺浦小漢字検定等) ④めざす資質・能力の明確化 児童の実態を考慮するとともに、児童に身に付けさせたい資質・能力と目指す姿を単元ごとに児童と共に確認し、より意識して「～たい。」の意欲につなげる。	4			・子ども達の長所や課題をしっかりととらえておられ、子ども達のやる気を起こさせるアイデアが素晴らしい。
	生活や次の学習で使える知識・技能を習得させる学校	1 読み書きのスキルは、ドリル学習で習熟を図る。 2 使うために学ぶという意識の働く授業を行う。	・前学年までの漢字の読み書きの正答率90%以上 ・計算問題の正答率90%以上 ・学んだことを、生活や後の学習で生かした児童の割合(アンケート)	達成児童80% 達成児童80%	95% 93%	61% 96%	78% 100%	B	③読み書きスキルの定着 ⇒漢字学習は、高学年の定着率が低い△ ⇒計算問題はほぼ全員正答率90%以上◎ (90%に満たない児童:70～80%台) ④使うために学ぶ意識を育てる取組 ⇒学んだことを生かしている児童多数◎ ⇒「使うために学ぶ」意識が高まりつつある。		4			・漢字の定着に向けた取組が工夫されている。漢字学習の定着率が上がり、国語力が向上することを期待している。
豊かな心と健やかな体の育成	自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土の醸成	1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。	・他者の頑張りに基づき、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張りに基づき、自らの取組に生かした児童の割合	達成児童100% 達成児童70%	100% 66.7%	100% 85.7%	100% 100%	A	①「〇〇マイスター」認定活動の実施 ・2学期末から全校でのマイスター認定活動(努力を続けている姿、継続して頑張っている姿等の認め合い)を実施 ⇒全員1つ以上の認定あり。認定証を渡し、その掲示をして認め合うことができた◎ ⇒現在も見つけ合いを継続実施中 ○ ⇒「他者のがんばりを自らに生かす」ためへの声かけ、支援を実施中○	①認定活動の継続・充実 ・次の2点を重点取組とする。 1 いろいろな子が友達を多数推薦できる 2 教職員が児童の頑張りをもたさず見つけ認める ・頑張りを引き出す「しかけ作り」を見直す ・他者の頑張りに基づき意識の醸成(声かけや認め合い活動の充実、「チャレンジ宣言」の取組等)	4			・マイスター活動で、他者の良いところを見つけて、本人に知らせる活動は自己肯定感が育まれてとても良い。活動の良さを、便りなどで広く発信してほしい。
	自身の立てた目標に向けて、努力を惜しまない児童の育成	1 もっと成長したいと思わせる場の設定を工夫する。 2 目標と取組状況を見える化し、努力を称賛する。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	81%	100%	100%	A	②めざす姿と努力目標を明確にもたせる工夫 ・学校行事に向けた取組や体力向上の取組において、1 目標決定→2 行動設定→3 努力の見える化(カードやシール)→4 認め合い を実施。 ・自分の立てた目標に対し、より具体的に行動に移す(努力する)姿が全員において見られた。 ⇒取組に一定の効果・成果が見られた◎ ⇒「緊張感の継続が難しい」「全員に達成感を味わわせたい」「毎学期に立てる個人目標の運動が不十分」との反省あり△	②取組状況の見える化の継続・発展 ・体力づくりの取組に緊張感や十分な達成感をもたせられるよう次の2点を改善する。 1 取組に「期間」を設ける 2 定期的に、テスト(測定)等を実施し、成果を実感できるようにする ・行事や体力向上の活動で取り組むだけでなく、毎学期に立てる目標に対して、日常的に取り組むことを大切にしていく。	4			・目標や取組状況が見える状態であるのは、子ども達の意欲が向上して良い。子ども達が毎日進んで体力づくりに励む姿に、頼もしさを感じている。
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	1 行事等で、児童・保護者の顔と名前を島民に紹介する。 2 児童・保護者に、積極的に地域行事を紹介し、参加を促す。	・地域住民に名前を呼んでいただいた児童の割合 ・島内の地域行事に参加した児童(家庭)の割合	100% 100%	100% 91.6%	100% 91.6%	100% 91.6%	B	①児童・保護者の顔と名前を知っていた ・地域住民とつながりを深める取組 ・行事前(学習発表会・マラソン大会)には、児童の顔・名前入りのポスターを屋外掲示板に掲示。マラソン大会では名前入りゼッケンを着用。 ⇒全児童が名前を覚えていただいたり、応援したりしていただいた◎ ②地域住民と協働した参加支援の継続 ・保護者役員、学校から地域住民へ働きかけ、密な連携 ⇒ほぼ全児童(家庭)が島内の地域行事に積極的に参加◎	①取組の継続・充実 ・学校の様子、児童・保護者の名前を知っていただく取組の充実を図る。(地域の掲示板の積極的な活用等) ②地域とのつながりを深める取組の充実 ・地域住民に感謝の気持ちを伝える「ありがとう発表会」の取組の継続 →地域への愛着・感謝、学校への誇りを醸成 ③・④取組の継続・充実 ・学校が保護者、地域と教育目標を共有し、今後も協力を得ながら学校づくりを進める。 ⑤業務の効率化に向けた職員のスキル育成の充実 ・ICTを活用した事務処理能力の向上等にかかわる研修の充実	4			・学校行事でのゼッケン着用やポスター掲示によって、鷺浦小学校の子ども達の顔と名前を覚えることができたので、より学校を身近に感じることができた。
	教職員の勤務時間外在校時間の縮減(月45時間以内)	1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 「働き方改革」の取組について地域・保護者へ周知し、理解と協力を仰ぐ。 3 過度な業務遂行を適正化する。	勤務時間外在校時間数の年間トータル時間数	500時間以内 達成職員100%	71.4% 83.3%	83.3% 77.3%	77.3% 77.3%	C	③定時退庁の実施(週1回) 勤務時間を意識した働き方の浸透 ⇒勤務時間外在校時間の縮減◎ ④保護者による理解と地域人材の活用 ・時間外電話対応(緊急時を除く)の大幅減、マラソン伴走・茶道等は地域協力者と連携 ⇒指導の充実◎ ⑤ルーティン業務の見直し ・放課後学習等の担当の変更⇒教材研究、子どもと向き合う時間の確保 ・勤務時間外在校時間が目標未達成△		4			・島において、鷺浦小学校の果たしている役割はとても大きい。今後も、地域住民と保護者・子ども達とのつながりをさらに強固なものにしていくよう、連携していきたい。

【: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。

